

科目区分	教養科目	授業科目名	中国語Ⅱ			科目コード	24S021	担当者	塚 蘭			担当形態	単独
対象学科・コース	生活創造学科 栄養士コース	配当年次	1年次	開講学期	後期	単位数	1	必修・選択の別	選択	免許・資格要件			
授業形態	演習	履修条件	「中国語Ⅰ」の単位を修得していること								教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分	
実務の経験を有する教員担当科目		実務の経験内容及び科目との関連										科目に含めることが必要な事項	

授業の主題	ある程度流暢に中国語の会話などができるようになる。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	講義での不明点等は、適宜受け付けます。
授業の方法	基礎文法を理解した上で繰り返し会話を練習する。	アクティブ・ラーニングの実施方法	

回数	授業計画	事前・事後学修	回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	否定文「没有」	テキストを参考にしながら会話を練習する。	第9回	「会」+動詞、結果補語	会話練習	
第2回	反復疑問文	テキストを参考にしながら会話を練習する。	第10回	中国語の中の外来語	会話練習	
第3回	助動詞「要」、「能」の使い方	会話練習	第11回	中国語の中の日本語	会話練習	
第4回	長崎観光名所の中国語訳	会話練習	第12回	中国語の中の方言	会話練習	
第5回	助動詞「能」+動詞	テキストを参考にしながら会話を練習する。	第13回	中国人の姓と名前	会話練習	
第6回	比較に用いる「比」の使い方	テキストを参考にしながら会話を練習する。	第14回	人民元と日本円の数え方	会話練習	
第7回	「开玩笑」、「談笑話」	会話練習	第15回	基礎文法の総復習	会話練習	
第8回	疑問文「怎么样」、「什么样」	テキストを参考にしながら会話を練習する。			事前・事後学修時間 (分/授業1回)	45分/授業1回

教科書 [書名/著者名/出版社]	未来をひらく入門中国語/劉頌浩・町田茂/朝日出版社	受講生へのメッセージ	一年間の中国語の勉強を通じて、ある程度の中国語の会話力、文章の読解力を身に付けることができれば何よりです。
参考書 [書名/著者名/出版社]	なし		

評価基準																	
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点 学修成果の 比率(%)	評価方法の配点比率(%)						学修成果の小分類			尺度				
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S: 100~90%)	レベル4 (A: 89~80%)	レベル3 (B: 79~70%)	レベル2 (C: 69~60%)	レベル1 (F: 59%以下)
観点	尽心	① 学習意欲	50					50	疑問があれば積極的に質問ができる。自主的に遅刻・欠課後のフォローができる。	向学心、真面目さ	積極的な質問等、遅刻の有無等	疑問があれば積極的に質問ができる。自主的に遅刻・欠課後のフォローができる。	疑問があれば積極的に質問ができる。ある程度自主的に遅刻・欠課後のフォローができる。	疑問があれば質問ができる。自主的な遅刻・欠課後のフォローが遅れた。	疑問があっても積極的に質問ができない。自主的な遅刻・欠課後のフォローができない。	疑問があっても質問ができない。遅刻・欠課後のフォローができない。	
		② 規律性															
	知識・技能	③ 知識	50	50						文章の読解力があり、日常会話の翻訳ができる。	実用的な日常会話と文章を解読、翻訳する能力	筆記試験、口頭試験	文章の読解力があり、日常会話の翻訳ができる。	基礎中国語の会話ができる程度できる。	初級中国語の文法、文章の読解力が身につけており、会話ができる。	初級中国語の聴力が身につけており、会話ができる。	初級中国語の発音、聴力、文法が身につけておらず、会話ができない。
		④ 技能															
	創造	⑤ 情報活用能力															
		⑥ 課題解決力															
	表現	⑦ 言語活用能力															
		⑧ コミュニケーション力															
	実践	⑨ 主体性															
		⑩ 協働性															
合計			100	50				50									